

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700420		
法人名	社会福祉法人 きたはりま福祉会		
事業所名	フレール離宮西町		
所在地	兵庫県神戸市須磨区離宮西町2丁目2-5		
自己評価作成日	令和6年5月9日	評価結果市町村受理日	令和6年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に離宮公園があり、緑に恵まれ、南には瀬戸内海や大阪湾が眺望できる環境の中、運営されている。家族との便りやメール、歴を大切にしたい行事の実施、コロナ禍開催が中止となっていたが、年2回の家族会の開催など、家族との連携を重視している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に離宮公園があり、緑豊かな環境に立地し、各ユニット少人数の家庭的なグループホームである。広く採光の良い共用空間は、季節感・生活感が感じられる家庭的な環境で、散歩・ラジオ体操・個別レクリエーション・家事参加等を日課とし、日常生活の中で楽しみや役割を持ち、機能低下が予防できるよう取り組んでいる。家族会・家族との面会を再開し、毎月、「フレール新聞」とともに、利用者個別の写真と文書で家族に近況を伝え、家族との連携強化に取り組んでいる。PDCAサイクルに基づいたケアマネジメント、施設内の看護師による健康管理・緊急時のオンコール体制整備等、看護職員と介護職員の連携により、利用者支援の向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分も入居してみたい」と思える家庭的な環境づくりを目標とし、全職員が共通の理念を共有しながら日々の業務に対して取り組んでいる。	法人の理念・事業所の基本方針に地域密着型サービスの意義を明示している。施設の理念・事業所の基本方針を各フロアに掲示し共有している。年1回、施設長面談時に理念についての理解度を確認する機会を設け、意識向上を図っている。日々の業務の中で理念に繋がる支援ができるよう意識付けを行い、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が「第五類感染症」となり、家族との面会も再開された。定期的な外出はまだ思うようには行えていないが、少しずつ施設内や近場での外気浴などを行っている。	併設施設の利用者や、隣接ハイツの住民と会話や挨拶を交わす等、利用者と地域の交流機会を継続している。地域の介護相談対応・シニアポイント制度ボランティアの受け入れ・地域の高齢者等の災害時緊急避難施設として受託する等、施設として地域貢献や協力関係を継続している。令和6年度は、高校生の福祉体験の受け入れを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催しには毎年参加をし地域との交流に努めてはいるが、地域の方々がどこまで認知症に対するや理解・支援方法を理解されているかはわからないが、近隣の高校生や小学生との交流の中で入居者への理解を進めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、様々な立場の有識者との意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	利用者・家族・地域代表(人権擁護委員等)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所管理者等)・施設職員を構成員とし、2ヶ月に1回、奇数月に集合開催している。会議では、入居者状況・職員状況・行事・アクシデント、ヒヤリハット等について報告し、構成委員と意見・情報交換し議事録を作成している。議事録は、各ユニット入り口に議事録ファイルを設置して公開している。	

フレール離宮西町

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神戸市高齢福祉課や住宅都市局等との定期的な連携を行い、協力関係を築いていける様取り組んでいる。	市営住宅型グループホームとしての特性上、市の高齢福祉課・住宅都市局と日常的に連携・協力を図っている。緊急避難施設としての訓練時には市職員の来訪があり、シニアポイント制度ボランティアの受け入れ等で市と連携している。福祉的支援を必要とする利用者について、区の保護課と協働して利用者支援に取り組んでいる。報告・対応・相談や、判断に迷う時があれば、随時、電話等で市担当部署や区保健センターと連携し、適切な運営に反映している。また、地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加を通じて連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設で開催している「身体拘束等適正化委員会(年4回)」に出席し、身体拘束廃止に向けた話し合いを行いマニュアルに沿って身体拘束をしないように取り組んでいる。	「身体拘束適正化委員会指針」を整備し、毎年見直しを実施している。施設として、「身体拘束適正化委員会」を3ヶ月に1回開催し、各部署の状況報告、研修についての検討等を行っている。現在、事業所での拘束事例はないが、あれば解除に向けて検討し、定められた記録・手順に基づいて解除に向け取り組んでいる。議事録の回覧印により、委員会内容の周知を明確にしている。令和5年度は、年1回、資料研修として「身体拘束適正化研修」を行い、令和6年度は年2回の実施を計画している。フロアの玄関は施錠しているが、希望があれば施設内の散歩や花壇に出かける等、利用者が閉塞感を感じないよう支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で虐待防止研修が年1回実施され虐待の種類や内容の研修を受講。虐待を防止する為の取り組みについて学び防止に努めている。	「虐待防止委員会指針」を整備し、基本的に3ヶ月に1回「虐待防止委員会」を開催しているが、令和5年度は、定期開催とともに随時にも開催し、議事録の回覧印により、委員会内容の周知を明確にしている。研修について、令和5年度は年2回、コミュニケーション技術研修(アンケート方式)と、認知症・アンガーマネジメント・接遇研修(集合研修)を実施し、不適切ケアの未然防止に向け取り組んでいる。毎年「虐待の芽チェックリスト」を活用し、個々が振り返る機会を設け、虐待防止委員会で集計結果を共有し意識向上に努めている。毎年ストレスチェック、年1回施設長面談等を実施し、職員のストレス等がケアに影響しないように取り組んでいる。	

フレール離宮西町

自己	者第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に参加し理解を深め実践に役立てている。研修に参加できなかった職員に対しては職員会議等で資料を配布し共通の理解が得られるように努めている。	家族後見の成年後見制度の利用事例があり、通常の定期的な状況報告や金銭管理資料の提供・面会対応等、制度利用を支援している。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、施設長が地域包括支援センターと連携して支援を行う体制がある。	外部研修受講による伝達研修や資料回覧等により、職員が権利擁護に関する制度について、基本的な知識と理解を得る機会作りが望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者と契約を行う際には、重要事項説明書を家族とともに確認し、家族の不安や疑問等について解決出来るように努めている。	入居希望・相談があれば見学対応し、パンフレット等を基にサービス内容・費用等を説明している。契約は基本的に副主任が行い、契約書・重要事項説明書・同意書・指針等各種書類を基に説明し、文書で同意を得ている。外部受診対応等については特に詳細に説明し了解を得ている。契約内容改定時は、変更内容を明確にした文書を作成し文書で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	R2年～R4年度の「家族会」は中止となったが、面会時(予約制)や電話応対時に現状報告や意見を求める機会を設けた。	面会・電話での近況報告時等に、家族の意見・要望の把握に努めている。利用者担当職員が作成する個別の「フレール新聞」(写真と文書)を毎月郵送し、利用者個々の近況や行事・生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。家族の意見や要望等があれば、「フレールLINE」で共有し、迅速に個別対応している。令和5年11月に家族会を再開し、運営推進会議の内容等を報告し、意見交換等を行い、家族の要望を反映できるよう取り組んだ事例がある。運営推進会議に家族の参加があり、事業所や外部者に意見を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職責者会議や寮母会を開催し、施設運営や業務内容についてなど話し合う場を設けている。	2～3ヶ月に1回「寮母会(フロア合同)」を実施している。会議では委員会報告・入居者についてのカンファレンス・連絡事項報告・業務についての検討等を行い、利用者支援・業務改善・運営等に反映できるように取り組んでいる。日々の意見・提案等の検討結果は「フレールLINE」で共有している。個別の意見・提案等について、年1回定期的に施設長、事務長面談や、随時、施設長・副主任が聴取する機会を設けている。月1回、施設の職責者会議に副主任が、また、各種委員会に担当委員が参加し、各部署の職員の意見や提案を共有している。	

フレール離宮西町

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の個人面談を行い、業務改善や職員のスキル向上に努め、成長を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護や虐待防止等に関する施設内外で開催される研修に職員を参加させる等を行い、職員のスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	R2年～R4年度は開催中止となっている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された利用者に対し不安などを少しでも理解し取り除けるよう心掛け、なるべく今までの生活を崩さないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接時に家族の不安なことなどを聞き取り少しでも安心して入居していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人や家族が何を必要とし、求めているのかを見極めるよう心掛け、その事に応じた意見やアドバイスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と同じ目線で対応し、入居者個人を尊重して介護にあたる様努めている。		

フレール離宮西町

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	病院の定期時受診に付き添いをして頂いたり、 外食や外泊等入居者本人の希望に少しでも寄 り添えるよう家族に相談し協力を依頼している。 (現在は、外食・外泊は不可となっている。)		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在住んでいる場所が今の生活の場であり、 知人や友人が来荘された際にはゆっくりと時 間を過ごして頂けるよう努めている。	玄関面会スペースでの家族・友人・知人等との 面会を再開し、また、電話・手紙・ビデオ通話 ・「フレール新聞」等、可能な方法で馴染み の人との関係継続を支援している。時期や場 所を勘案しながら、家族との外部受診・ド ライブ・墓参等の外出(外食は自粛を依頼し ている)により、馴染みの場所との関係継続 も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	見守りの中で入居者同士の関係性を確認し ながら、座席の配置等に気を配っている。入 居者同士が仲良く生活を送って頂けるよう にレクリエーションへの参加や各階同士の 交流を図り楽しみの一つとなるよう努めて いる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み	特養へと移られた入居者が数名おり、時折 様子を見に行ったり、特養のスタッフからそ の方々の状況等を聞いたりアドバイスをす る等して連携に努めている。		
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	自分の意見や思いを言える方はその話を聞 き、困難な方からは家族からの要望、表情 や態度などから少しでも理解できるように 努め、一方的なケアとならないよう努めて いる。	入居時の利用者個々の思いや暮らし方の希 望・意向は、入居時の「面談記録」を基に 作成する「データベース」の本人・家族の 希望・生活歴欄等の情報から把握し、介護 計画や利用者支援に反映できるよう取り組 んでいる。把握が困難な場合は、表情・言 動等から推察し、家族からの情報も参考に しながら、利用者・家族の意向に沿った支 援に努めている。	入居後に把握した内容を「データベース」 に追記して共有する等、「データベース」を 利用者個々の人物像の把握と個別支援に 活用することが望まれる。

フレール離宮西町

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やか家族からの情報収集を行いこれまでの生活歴を把握できるよう努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子等を記録に細かく残し、その方に変化があればその都度に情報交換を行い、常に現状を把握できるように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心してより良く生活ができるようにスタッフ同士が意見交換ができる機会を作るように努めている。また、本人や家族の意見を聞きながら今必要とされる介護計画を作成している。	「データベース」「アセスメント(ADL)」等をもとに、初回の介護計画を作成している。職員がiPad内で介護計画を確認し、介護記録の「種別」欄を活用し、計画に基づいた実施状況が記録できるよう取り組んでいる。毎月、各利用者担当職員が介護計画のニーズに沿って「1カ月のまとめ」を作成し、介護支援専門員が短期目標に沿って「モニタリング表」でモニタリングを行っている。必要時には随時、定期的には6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。見直し時は「モニタリング表」での評価、「ケアチェック表」での再アセスメントを行い、職員の意見を集約して担当者会議録に記録している。家族の意向、往診医(内科医・歯科医)等関係者の意見も、担当者会議録に記録している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく日誌とiPadに記録し、職員間で情報が共有できる様努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化に伴い、その情報把握に努める。受診が必要な場合にはかかりつけ医等の医療機関との連携を図っている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域福祉センターなどの祭りに参加し、地域資源を活用出来るように努めている。(R2年～R3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、開催されていない。)		

フレール離宮西町

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している 内科・歯科の定期往診が行われている。（現在眼科の往診は行われていない）。緊急時の相談も行えるように連携を図っている。また、主治医以外でも新しく受診している病院については主治医にも状況を報告している。	入居時に、週1回の定期的な嘱託医（内科）の往診体制があることを説明し、全利用者がかかりつけ医としている。他科については外部受診となり、家族同行を基本としFAXで情報提供しているが、必要に応じて職員が受診同行している。外部受診・往診結果は「介護記録」・システム内申し送りで共有している。現在は、FAXで嘱託医に情報提供を行っているが、今後、嘱託医・薬局・看護師・事業所間で「LINE WORKS」を活用し情報共有する計画である。併設施設の看護師と定期的に連携を図り、急変時のオンコール体制等医療連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している 日常的に併設施設の看護職と連絡を取り、情報の共有に努めている。また、急変時に電話連絡で支持が受けられる様に体制を整えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 入院時は病院関係者に状況を聞きながら情報収集に努めている。またその集めた情報を踏まえた上で職員間で情報の共有や交換を行い、家族、病院関係者との関係づくりに努めている。	入院時は「介護サマリー」を作成し、情報提供している。退院が近づけば、主に電話で家族や医療連携室と情報交換し、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンス実施時は参加して情報収集を行い、入院中や退院時の情報は、随時介護記録で共有している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の生活支援に反映している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる 家族や本人から重度化した場合や終末期の在り方についてどのような考えを持たれているかの意見を聞くようにし、またそうなった場合に医師やケアマネ、家族等が話し合いが持てるように努めている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいて、事業所では看取り介護は行わず、現状に適した病院・療養型施設等への移行を支援する方針であることを説明し、「重度化した場合における対応について」文書で同意を得ている。重度化段階になれば、事業所方針を再度説明し、主治医・介護支援専門員・家族等を交えて今後の対応を話し合う機会を設け、家族の意向に沿って適切なサービスに円滑に移行できるよう支援している。	

フレール離宮西町

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えての対応マニュアルが用意されているが定期的な訓練は実施されておらず、定期的な訓練を行う機会を設ける必要があると思われる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練については定期的に実施されている。地域の高齢者や障害者の災害時緊急避難先として併設施設が指定されている。	令和5年度は9月に、利用者参加のもとで日中想定 の火災時避難訓練を実施し、避難経路・場所等を再確認し「避難訓練実施報告書」を作成している。報告書の回覧により課題等を共有している。令和6年度には夜間想定 の訓練を予定している。災害時緊急避難施設として区・市と連携して訓練を実施し、地域と協力体制を整備している。「グループホーム備蓄リスト」を基に、水・ガスコンロ・食料3日分等を事業所で備蓄し、施設の管理栄養士が管理している。	
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者である入居者に対し尊敬を持って丁寧な言葉遣いを心掛けている。その方のプライバシーや自尊心を傷つけない様に日々努めている。	「コミュニケーション技術研修」・「アンガーマネジメント・接遇研修」を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「虐待の芽チェックリスト」を活用し、定期的に自身の言動・態度を振り返る機会を設けている。日々のコミュニケーションやケアの中でのプライバシーへの配慮については、副主任が注意喚起し周知している。フレール新聞・個人写真・ブログ・ホームページ等での写真や映像使用時は、個人が特定できないよう工夫している。	写真や映像の使用について、フレール新聞・個人写真・ブログ・ホームページ等に区分して文書で意向確認しておいてはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が意見を誘導したり、押し付けたりせず本人の意思や意見を尊重できる様心掛け、少しでも本人の希望に添えるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や意見を押し付けたりせず、入居者個人のペースで生活が行えるよう日々心掛けて対応している。		

フレール離宮西町

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に準じた衣類の選択や着用して頂ける様家族とも相談しながら衣替えを行っている。また、毎月散髪業者が来荘し散髪が行われている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いたり、お膳を洗って頂いたり等その方がしてもらえることをしてもらっている。	各フロアで炊飯と汁物調理を行い、併設施設の厨房で調理した食事を盛り付けて提供している。献立は管理栄養士が考え、季節感・行事食等への配慮があり、献立内容に応じて、事業所内で調理方法を工夫している。きざみ食等食事形態にも、各フロアで適宜対応している。毎月開催する給食会議には委託業者も参加して献立等について検討し、利用者の要望・嗜好等検討結果を献立・調理方法に反映している。可能な利用者がテーブル拭き・洗いの等に参加できるよう支援している。事業所内でおやつ作りの機会を設け、季節や変化が楽しめるよう取り組んでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の食事摂取量や残渣物の量を記録として細かく残し、個人にあったメニューの変更等を栄養士と相談し連携を図っている。また、その方にあった盛り付けの量、大きさにして見た目にも美味しく食べて頂ける様工夫している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアを行っている。また、義歯の手入れもしっかりと行っている。定期的な歯科往診もあり口腔内のチェックも行われている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、声掛けやトイレ誘導に努めている。	利用者個々の排泄状況・排泄パターンを、iPadと「チェック表」の排泄記録で把握している。排泄の自立度が高い利用者が多く、基本的に日中はトイレでの排泄、排泄の自立が継続できるよう支援している。夜間は、個々の状況に応じた支援を行っている。日々の検討事項があれば、「フレールLINE」で共有している。排泄は基本的に居室トイレを使用し、声かけ等プライバシーへの配慮を職員に周知している。	

フレール離宮西町

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分等の摂取や体操等の参加を促し、自然排便が出来る様に努めている。下剤の服用については量や回数をかかりつけ医との相談の元、便秘の予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各階に浴室があるが曜日や時間については施設側で決定している。 時間は午後と決めているがその中で希望や拒否があった際には時間をずらしたり、早めたりしてタイミングを変えてみる等の工夫は行っている。	週2回・午後入浴を基本とし、利用者の体調や希望に沿って入浴時間等柔軟に対応している。浴室・浴槽が広く、概ね2人ずつ順次入浴し、浴槽での入浴が困難な場合は、シャワー浴等利用者の状況に応じて対応している。拒否があれば個別の配慮で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい希望があればいつでも休める環境にはある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬手帳等を確認し、職員が薬の用法用量を把握できる様努めている。また服薬時には飲み終えるまで職員がそばにつき添い服薬の確認を行っている。処方の変更があった場合にも職員間での情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者とスタッフが一緒になって作業に取り組んだり、塗り絵やゲーム等のレクリエーションにも参加されて楽しんでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、定期的な外出はなかなか思うようには行えていないが、今後も外気浴などで外出の機会が増えるようにスタッフと相談しながら工夫していきたい。	施設の広い敷地内に花壇があり、日常的に敷地内を散歩し、外気浴や季節の花を鑑賞できる環境である。花見ドライブ等の外出を再開し、希望に応じて、家族との外出支援も再開している。	

フレール離宮西町

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については施設側が基本的には行っているが買い物等金銭が必要な場合には引き出すことが出来てご自分で清算できるようになっている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば寮母室の電話を使用してもらったり、手紙や葉書を希望される方には書いてもらっている。iPadやスマートフォンでのビデオ通話も行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの温度設定や風量、光や音に対してもカーテンの開閉や窓の開閉を行い注意を払っている。また、壁画飾りも季節に応じ変更し、季節の花を飾る等して季節感を感じてもらえるように努めている。	共用空間は広く、開放感があり、清掃も行き届き清潔感がある。こいのぼり・藤の花・カーネーションとミツバチ等共同制作品や、チューリップ等季節の生花を飾り、季節感が感じられる。テーブル席・椅子席・テレビ等が設置され、居心地よくくつろげる環境である。洗い物・テーブル拭き・カーテンの開閉・リネン交換等の家事参加を支援し、生活感を取り入れている。日課として、リハビリ体操・ラジオ体操、グループでの風船バレー、また、好みに応じて、パズル・ぬり絵・ドリル・カラオケ・トランプ等のレクリエーションや制作活動、家事参加等を支援し、役割づくりと生活リハビリにつなげている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの所々に長椅子や椅子を配置し、本人が思い思いの場所で過ごして頂ける様努めている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居された際には使い慣れた家具や本人が好まれるものや思い出の品などを持って来て頂き、少しでも本人にとって居心地よく住みやすい空間となる様に工夫している。	居室も広く、トイレ・洗面所・ミニキッチン・押し入れ収納等が設置されている。ベッドとエアコンはレンタルを活用している。整理ダンス・テーブルセット・姿見・衣装ケース・携帯電話等使い慣れたものや馴染みの物が持ち込まれ、その人らしい居室づくりを支援している。レクリエーションで制作した自身の作品等も飾られている。職員・家族が連携を図りながら、衣替えや清掃等、居室の環境整備を行っている。	

フレール離宮西町

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々にADLに個人差はあるが安全にそして少しでも快適なそして自立した生活が送れるように努めている。		